

誓いの言葉

今日は、二十歳という大きな節目を迎えた私達の門出に際し、素敵な式典を挙げて頂き誠にありがとうございます。田村みさ子町長をはじめ、ご臨席頂きました多数のご来賓の方々、並びに式典開催にご尽力を頂いた皆様に二十歳を代表して心より御礼申し上げます。また、私達を支え育ててくれた家族や、ご指導して頂いた諸先生方、温かく見守って頂いた地域の皆様、苦楽を共にし一緒に歩んできた友人、関わってくださった全ての方々に深く感謝をすると共に、こうして無事に二十歳を祝う会を迎えることができたことをご報告し、ご挨拶を申し上げます。

加えて、新年が始まって早々に心痛む出来事が起きています。能登半島地震で被災された方々をはじめ、航空機事故に遭われた方々、ご家族やご親戚の皆様にご心よりお見舞い申し上げます。また、亡くなられた皆様にご冥福をお祈り申し上げます。一日でも早く、全ての方が笑顔で暮らせるよう心からお祈り申し上げます。

さて、みなさん、この二十年間を振り返ってみてどのように感じていますか。長いようにも感じ、あっという間のようにも感じますね。きっと、それぞれがこの二十年という時のなかで、多くの喜びや悲しみ、苦しみ、後悔を経験してきたのではないかと思います。私はこの二十年間を思い返せば、楽しくて嬉しくて笑顔溢れた日もあれば、悲しくて苦しくて悔しくて涙した日もあり、悩み続けた日も多くありました。その感情や笑顔、涙は常に自分自身を強くし、成長させてくれているのだと私は思っています。今の自分があるのは、過去の自分があったからです。だからこそ、二十歳を迎えた今、周りの人達へ感謝をするのはもちろんですが、自分自身にも感謝をしています。

私は笑顔でいることが大好きです。人生の中で誰よりも多く笑っていたいと思うくらいです。また、世界中の人たちが笑顔で溢れたらいいなと思っています。しかし、人生はそんなにうまくはないので、壁にぶち当たったり、悩んだり、悲しかったり、苦しかったりすることが沢山あります。現実辛いことの方が多き気もします。そんな中でどうしたら笑顔になれるのかと考えた時に、笑っている自分も辛い自分も、どんな自分も受け入れてあげようと思いました。幸せなら幸せでもっと幸せになれるように頑張ってみたり、辛いなら辛いでたまには自分にご褒美をあげたり、自分自身を自分で受け入れる。それが自分を幸せにする、つまり笑顔でいるために大切なことなのではないかと思いました。

もちろん誰かに幸せにしてもらったり、幸せになる方法は人それぞれで、沢山あります。私は、まず、自分自身を自分で幸せにしてあげたいと思います。そして、自分が幸せになれた時に、初めて誰かを幸せにしてあげられると思っています。

これから先の未来、一度きりの人生を最高の人生にするもしないも、自分次第です。明日が来ることは決して当たり前のことではなく、いつ何が起こるかは分かりません。私は一度切りしかない、この人生を後悔するのではなく、最高のものにするために、どんなに苦しく、辛いことがあったとしても、感謝の気持ち、そして笑顔を忘れずに全力で生きようと思いま

す。

最後にはなりますが、私達は二十歳という大きな節目を迎えましたが、大人としてはまだまだ未熟者です。沢山の成功や失敗を重ね、成長し続ける私達をどうかこれからもご指導、ご鞭撻して頂くと共に、温かく見守って頂けると幸いです。

簡単ではございますが、以上で二十歳誓いの言葉とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

令和六年一月八日

二十歳平井地区代表 林 美 帆